

平成31年度 学校経営要綱

1 学校教育目標

学び合い、高め合い、社会力を身につけた峰の子の育成
長峰プライド：「峰の子 ガッツ！」

(教育目標に込めた意味・内容)

学び合いとは・・・生涯学習の観点から学び続ける子どもの育成。(子ども・職員・保護者)

学習場面では、**主体的学習と対話力**の向上により、学ぶ楽しさを実感する姿。

高め合いとは・・・人と繋がり、活動を創り出し、自分や集団の成長を実感する姿。(集団づくり)

社会力とは・・・新たな集団(クラス・学校・社会)を創り出す力。(社会参画力)

峰の子とは・・・ふるさと長峰の人や文化を誇りに思い、将来**地域や社会を担っていく**子ども

(1) 教育目標設定の基盤

- ① 日本国憲法、教育基本法、学校教育法その他の関係諸法規の精神を尊重し、福岡県教育委員会、南筑後教育事務所及び八女市教育委員会の教育施策重点目標に示された事項に立脚する。
- ② 学校は「人間形成の場」ととらえ、目の前の子どもたちの実態や社会の実態・変動等を鑑み子どもたちが現在及び未来をたくましく生きぬくことができる総合的な人間力を備えることができる教育活動の創造を行う。
- ③ 福岡「教育力向上」教育ビジョンの実現を目指すために、地域の伝統や文化を大切にしながら、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の推進を行う。

2 本校教育がめざす姿

(1) めざす子ども像

- 【知育】切磋琢磨し、自ら学ぶ意欲と知性を身につけた子ども
- 【徳育】規則を尊重し、自・他ともに大切にできる子ども
- 【体育】目標を持ち、粘り強く取り組む子ども

(2) めざす学校像

- 美しく、静かな学校(静)
- 子どもが生き生きとし、楽しい学校(動)
- 保護者や地域と連携し、地域に根ざす学校(信頼)

(3) めざす教師像

- 子どもの現実としっかり向き合い、実践する教師
- 専門家として自らを磨き、常に前進する教師
- 社会性を持ち人間味にあふれた、信頼される教師
(子どもにとっての安心感と正義感)

(4) めざす地域像

「自然と歴史と人々が共生し、うるおいと活気のあるまちづくり」

～ 誰もが支え合いふれあえるまちづくり ～

- 相撲や伝統行事を通しての子どもの育成

3 学校経営の基本方針

- (1) 公教育の立場に立ち、校長を中心とした調和と統一のある学校経営に務めると共に、職員の主体性・結果責任・同僚性を発揮した効果のある学校運営を行う。
- (2) 学校・地域・家庭が連携連動し、多様な人材の活用を図り、地域の特性を生かした教育により、地域・社会を担う人材の育成を図る。
- (3) 基礎的基本的な知識技能の定着を図るとともに、子どもたちが自ら追究する主体的な学習により、「学ぶ」ことの価値や楽しさを実感できる学習を追求する。

〈学校経営の理念〉

- 学校は地域の大樹であり、地域づくり人づくりの中核である。
- 率先垂範・師弟同行・・・子どもに求めることは、すべて自らしてみせる。
- 夢・志ある所に道は開ける・・・目指すもの・姿を強く思い描く。
- 自らを磨く・・・本物（人・もの・こと）との出会いで人は大きく成長する。

4 本校の教育課題と経営課題

① 教育課題

- 主体性の育成（思考力・判断力、責任感、人間関係調整力の向上、目標設定）
- 基礎・基本の内容および学び方の定着
- 論理的な思考力・表現力の育成
- 支え合い高め合う、より良い人間関係（集団）づくり

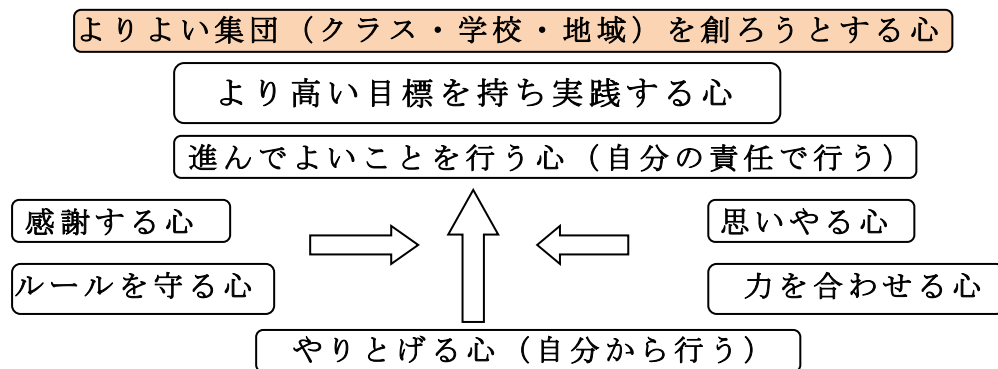
② 経営課題

- 職員の校務運営への参画（主体的な態度・実践、リーダーシップとフォロワーシップの発揮）
- 子どもの主体的な学びを促す授業力の充実（「内容ベース」の授業から「資質・能力ベース」の授業への改善）
- 子どもたちの関わり合い支え合いを高める学級経営力の向上
- 学校・家庭・地域の連携による教育環境の整備充実（CSの充実）

5 重点目標と経営の重点

【中期重点目標】

- 八つの心のみがく子どもの育成（心：意思と実践力、態度）
 （やりとげる心・ルールを守る心・力を合わせる心・思いやる心
 ・感謝する心・進んで良いことを行う心・より高い目標を持ち実践する心
 ・よりよい集団（クラス・学校）を創ろうとする心）



これまでの取組

- 27年度 やりとげる心 (自主性の育成)
- 28年度 すすんでよいことを行う心（一日一善） (道徳性の育成)
- 29年度 より高い目標を持ち実践する子ども (主体性の育成)
- 30年度 課題を明確に持ち、自分たちの手で解決しようとする子ども (主体性・協働性の育成)

【本年度の重点目標】

「よく考え、ともにのびる子ども」の育成
合い言葉：「みんなでチャレンジ 峰の子ガッツ！」

「よく考え」とは、自分達の課題を達成するために、これまでに身につけた知識や技能、思考法、態度などを駆使して、課題解決に向けて積極的に考えを出し合うことである。「ともにのびる」とは、課題を共有し、課題解決の見通しを持ち、協働的に解決を図り、課題解決一連の過程をふり返り、自分達の学び方を見直すことである。そして、

「ともにのびる」ためには、集団との対話や共感的人間関係が必要不可欠である。

そのためには、子どもたちに「みんなでチャレンジ 峰の子ガッツ」を合い言葉に、以下の資質・能力を育てていく。

＜ガッツの内容、ガッツである条件、成長を見取る尺度＞

主体性（価値理解、目標達成へのこだわり、粘り強さ）

計画性（見通し、学び方の理解）

創造性（アイデア、論理的思考法）

協働性（自他の尊重、役割の自覚と実行、達成感や成就感の共有）

共感性（他者理解、合理的な考え方、価値創造への行動）

こんな事が大切に

明確な（具体的な）目標設定（時間的に）（内容的に）

主体的に取り組を進める意欲付け、こだわり（内発的動機付け）

やりとげる事が可能である道筋と手だての支援

役割分担と役割の自覚

挫折と克服 自分が高まっている実感や成就感 喜びの共有

すべての考えを否定しない態度（自己肯定感の向上へ）

全ての基盤となる共感的な人間関係づくり

重点目標達成のための取組の重点と内容

（重点目標達成のための具体的取組の内容）

- みんなでめざす授業づくり（頭の教育）
 - ・ 主体的、協働的な授業づくり
 - 対話を通じた学び（めあてとまとめ、見通し、追究、発表、振り返り）
 - ・ 主体的、協働的な授業の基盤となる基礎的知識技能
 - たしかめ100による繰り返し指導（ステージ毎）

- みんなでめざす集団づくり（心の教育）
 - ・ 合唱：美しい歌声とハーモニー
 - ・ 学校や家庭・地域でのあいさつ
 - ・ ピカピカ掃除（しつけとして）

- みんなで乗り越えるカベの克服（体の教育）
 - ・ 壁の設定
 - 逆上がり、一輪車、竹馬、倒立、ドッジボールラリー
長縄、二重跳び など（スポコン広場との関連）

【評価と達成目標】

重点目標評価の観点

育てる力	授業	あいさつ・合唱	壁の克服
主体性	・子どもが目指す授業像を持っている。 ・めあてを自力で立てられる。	・あいさつ、合唱の意義、価値を理解している。 ・表現主題実現へのこだわりを持っている。	・カベを乗り越える価値を理解している。 ・カベ達成へのこだわりを持っている。
計画性	・見通しを明確に持っている。(内容と方法) ・その教科の学び方、進め方を知っている。	・見通しを明確に持っている。(場の工夫) ・いい挨拶、発声法、練習法を知っている。	・見通しを明確に持っている。(場の工夫) ・乗り越え方(練習法等)を知っている。
創造性	・既習経験を駆使して、考えをつくり出している。	・場に応じたあいさつを考えている。 ・表現主題に応じた歌い方を工夫している。	・練習方法を工夫したり、新しい技を考え出したりしている。
協働性	・子どもが進行に関与している。 ・考えを繋いでいる。対話をしている。 ・まとめを自力で出す。 ・成就感を味わっている。	・友達とも挨拶している。協働して掃除する。 ・相手を理解した上で、アドバイスしている。 ・周りの声を聴き、ハーモニーを高めている。	・友達と助け合っている。 ・自主的に練習している。 ・達成した喜びを感じている。
共感性	・言動等の表面的なことだけで判断せず、「どうしたの?」という言葉が発することができるクラスである。 ・「おかしい」ことを「おかしい」と言うことができるクラスである。 ・「おかしい」ことの原因分析に基づく解決行動を起こすことができるクラスである。		

具体的取組の評価

- **なれる・がんばる・みがく・ねりあげる** の4ステージでの評価改善を行う。
特に、課題・改善策を明確にしたマネジメントを行う
- 目標設定・共通理解→実践→評価→改善のサイクルを週、月単位で確実に回す。
※ 4月尺度共通理解→PTA総会説明→実践→中間評価→実践→12月まとめ
※ 教師と児童の共通理解を図りながら、サイクルを回していく。
- すべての考えを否定せず、そこに見られるよさに着目して認める態度を基本とする。

【本年度の経営の重点】

※主体性・結果責任・同僚性を重視した経営を、明確なPDCAで改善する。

- 1 職員一人一人の参画意識(役割と責任)の向上
 - 主任を中核とした組織運営(運営委員会、コーディネーター会議等)
 - 目標達成にこだわる取組(PDCAサイクルの徹底)
 - 面談の充実(日常的支援の充実)、OJTによる人材育成
- 2 同僚性を発揮する組織運営
 - 主題研修の活性化(グループ討議等、主体的に研修に取り組むための工夫)
 - リーダーシップとフォロワーシップの発揮(教育推進班会議の機能化)
 - ケース会議や支援推進班会議の充実(組織的対応の推進)
- 3 コミュニティスクール促進
 - 学校運営協議会の機能化(会議の内容の共有化)
 - 教育課程内の学校支援体制の整備拡充(GTの積極的活用)
 - 教育課程外の子育ち支援体制作り(老人クラブ、保護者の会、PTAと連携)

本年度の学校経営の重点内容及び努力点

(1) 教育活動

① 教育課程の編成の基本方針

- 音楽科における基礎的・基本的内容の確実な習得、対話活動の工夫
- 基礎・基本の内容の定着並びに対話力の向上を図る単元の重点化
 - ・基礎基本の定着のための育成計画の作成（たしかめ100との連動）
 - ・書く活動を重視した授業づくり
 - ・読みを深めるための対話活動の工夫、対話力育成計画に基づいた指導
 - ・集団で解決する課題や教材の工夫（チャレンジ授業の設定）
- 特別活動における対話活動の充実
 - ・学級活動での対話力を生かした話し合い活動
- 特別活動・道徳の授業を中心としたキャリア教育の充実（推進計画の作成）
 - ・指導内容の重点化・関連的指導、合科指導の推進（総合単元）
- 地域行事・地域教材の積極的導入・連携
 - ・中島内蔵助顕彰祭への参加、中島内蔵助顕彰相撲大会の共同実施
- 魅力ある総合的な学習の再編
- 小中連携の育成内容を吟味した重点単元の設定
- 習熟度別学習を配慮した配時
- 体験的活動の重視（感動体験、本物体験、仲間体験の充実：G Tの積極的活用）

② 指導体制や指導方法の工夫

- 地域学校協働活動の充実
 - ・学習支援ボランティアの導入（学習支援計画作成）
 - ・技能芸能教科への技術的支援 等
 - ・読み聞かせ（親子読書）ボランティア等
- 少人数指導、学年単位での習熟度別指導、交換授業の積極的推進
- 基本的な学習過程の明示と確立（学習スタイルの工夫）
 - ・基礎的基本的な知識・理解、技能の定着を図る学習
 - ・対話（熟議）を重視した学習
 - ・特別支援学級においては、「渡り」の授業の学習スタイルを確立する。
- 学習評価の工夫による授業改善
 - ・児童による学習評価の工夫

③ 日常の諸教育活動の活性化

- ・集団づくりを中核に据えた人権同和教育の推進
- ・地域・家庭と連携し、あいさつ実践強化期間を設定。
- ・はげみの時間に漢字・計算・読み取り・対話力を向上させる時間を設定・実践（計画・実施・見届け）
- ・児童の教育的ニーズに応じた、補充的・発展的な学習の充実と積み上げ
- ・歌声が響く学級、学校づくりのための歌唱指導の充実（G Tの活用）
- ・学習規律等に関する共通理解・共通実践（決めたことを同一歩調で徹底する）
- ・児童が主体的に取り組む学校行事や学級活動（学級会）・児童会活動の計画・実施

(2) 組織・運営（主体的参画を図る組織運営）

- 学年会、近接学年会の活性化を図る組織運営
- 中堅リーダーを核とした組織の機能化と運営委員会の充実、
 - ・重点目標達成状況の評価確認と具体的な工夫改善の内容や方法の明確化
- 子どもとしっかり向き合う時間を確保する組織・運営の効率化
- 参画意識と組織マネジメント力の向上

- ・リーダーシップとフォロワーシップの明確化
- ・共通理解・共通実践・主体的教育活動のための諸会議の重点化
- ・到達目標を基にした学級・各部の指導計画の整備と実施状況の見届け・評価
- 保護者・地域を巻き込んだ学校評価の充実（地域の学校づくり）

（3）教育環境および家庭・地域・関係機関との連携

- 地域の教育資源の積極的活用
 - ・外部講師（G T）の積極的活用・地域施設の活用・地域教材の活用開発
- 児童の主体的な活動を促す意図的・計画的な校内環境の工夫・改善を図る。
（教室、廊下等の掲示物・学級花壇等の管理・放送などの言語環境）
- 意図的・計画的な言語環境の整備（聴かせるアナウンス力の向上）
- 基本的な生活習慣の基盤となる健康安全教育の充実（食・保健・安全）
- 保護者・地域との連携強化による生活習慣及び学習習慣(家庭学習)の改善
 - ・「学び、実践する」保護者会の実現

（4）校内研修

- 音楽科の授業における「音楽や友達とかかわる活動の工夫」を通して、自ら音楽を楽しむ（感じる・わかる・できる）子どもを育成する。（後日、研修部より提案・審議）
- 一般研修における音楽科や外国語活動プログラム学習等の指導法の向上
- 小中連携研究の推進（本年度中心校：授業公開）
- 授業力の向上と基本的な指導技術向上のための日常的な授業交流
 - ・リクエスト研、若年研等
- 子どもたちの関係力を高める学級経営力向上のための研修の実施